

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	4年 外国語活動（1月） Let's Try! 2 Unit 7 What do you want? (全4時間)
①外国語活動の授業づくりの工夫（中学年）	町田市立忠生第三小学校 外国語専科 三原愛子

**「英語でお店屋さん」思考をはたらかせ、豊かに表現する児童の育成を目指して**

Let's Try! 2 Unit 7では、児童がこれまでに慣れ親しんだ語彙や表現も使って、児童同士で二往復以上のやり取りをする活動が設定されている。児童が場に応じた表現を選択し、コミュニケーションを図るには、またそれらを主体的に行うにはどのような言語活動が設定できそうか、児童の実態や日常生活を想起しながら、「お店を開く」という活動を設定することにした。

**児童と共に学習計画を立てる**

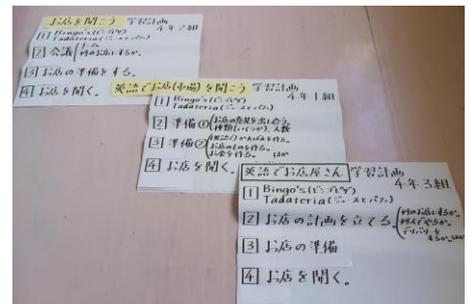
第1時（単元の導入の段階）で、指導者が既出の言語材料を使って開くお店（ピザ屋やジュースバー）を見たり、一緒にやってみたりしながら、児童が本単元の最終的な活動のイメージをもてるようにした。

児童からも「やってみよう」という声が上がったので、学級全体で「お店の条件」（本単元の言語材料と既出の果物、野菜、数などを扱うこと）を共有し、残り3時間の学習計画を児童と共に立てた。なぜ本単元でこの活動を行うのか、児童と活動の目的を共有できるようにした。



**単元や授業の途中のフィードバック（中間評価）**

児童が主体的に取り組み、学習調整を図っていくための手助けとなるように、単元や授業途中のフィードバックを行った。既習表現や場に応じた表現を上手に用いることができている場合はそのことを積極的に伝え、逆に、困っている児童やもっとこうしたいと思っている児童には支援をし、それぞれの児童の表現の幅が広がるようにした。



**<単元指導計画（抜粋）>**

<p>第1時（学習の見直しをもつ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>映像を見て、世界の市場と日本の市場を比べる。</li> <li>単元の終わりの活動のイメージをもつ。</li> <li>これまでに学習した野菜や果物などの言い方を思い出す。</li> <li>友達とやり取りをし、パフェを作ってみる。</li> <li>学習計画を立てる。</li> <li>振り返り</li> </ul>	<p>第2時</p> <p><b>何のお店にするか考えよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習語句や表現を整理する。</li> <li>Let's Chant What do you want?</li> <li>友達とやり取りをし、ピザを作ってみる。</li> <li><b>中間評価</b></li> <li>何のお店にするか、決める。</li> <li>振り返り</li> </ul>	<p>第3時</p> <p><b>お店の準備をしよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの復習をする。</li> <li>Let's Chant What do you want?</li> <li>誰がどんなパフェが好きかを聞いて、線で結ぶ。</li> <li>お店の準備をする。</li> <li><b>中間評価</b></li> <li>振り返り</li> </ul>	<p>第4時</p> <p><b>お店を開こう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの復習をする。</li> <li>Let's Chant What do you want?</li> <li>お店を開く。（前半）</li> <li><b>中間評価</b></li> <li>お店を開く。（後半）</li> <li>振り返り</li> </ul>
---	---	---	---

<参考文献> 『平成31年度（2019年度）教育研究員研究報告書 外国語活動・外国語』（東京都教育委員会）

指導助言・アドバイスコナー

本実践から、子供達が単元最後のゴール「お店屋さんごっこ」に向けて、どのようなことを学習すれば良いかを自分たちで計画を立て、楽しくお店を開いたことが分かります。学習指導要領にも「言語の使用場面の例」として「子供の遊び」と記されており、子供の興味・関心を題材に言語活動を仕組むことが大切です。ただ、言語活動を行うに当たっては、題材だけに注目するのではなく、なぜそれを行うのか、どういう場面や状況かを明確にし、子供がそれを意識することが大切です。本実践には記されていませんが、子供達は、慣れ親しんだ語句や表現を使って、まず友達やALTなどが好きな果物や食材を聞き取る活動を行い、彼らが気に入るパフェやピザを作り取りをして作る活動を経て、最後にお店屋さんごっこという場面で何のためにお店を開き、欲しい物についてやり取りをするのかという言語活動を行う目的や場面、状況が設定され、それを意識したからこそ、子供たちが楽しく「お店屋さんごっこ」に取り組んだものと思います。（文部科学省 視学官 直山木綿子）